

東日本大震災・原子力災害伝承館の運営に関する有識者懇談会 議事録

日 時 令和4年3月28日(月) 9:30～11:30

場 所 伝承館研修室

出席者 別紙委員名簿の通り

内 容

1 館長挨拶

(別紙資料4に基づき、開催趣旨等の説明)

2 委員自己紹介

(別紙資料2に基づき、委員による自己紹介)

3 議題

(1) 今年度の運営及び活動実績

(別紙資料5に基づき、令和3年度の事業実績の説明)

(2) 前年度懇談会でのご意見への対応等

(別紙資料6に基づき、令和2年度有識者懇談会でのご意見と対応状況の説明)

(3) 来館者アンケート結果

(別紙資料7に基づき、一般来館者回答概要の説明)

(4) 来年度の主な事業計画

(別紙資料8に基づき、令和4年度事業計画の概要の説明)

(5) 意見交換

【小沢委員】

昨年度の活動状況やアンケート結果の対応についてまずは質問・意見をいただきたい。上級研究員、常任研究員、客員研究員について取り扱いの差などの説明をいただきたい。

【事務局】

常任研究員は新年度(令和4年度)から4名を採用する。上級研究員は専門研修の講師や常任研究員に対しての指導教育などを行う。客員研究員は上級研究員がそれぞれ主導する研究班ごとに上級研究員とともに研究を行う。この研究班は大学や研究所等の関係機関の専門家などから構成されている。先日には研究班ごとの発表会を行った。

【前川委員】

毎回来るたびに展示のマイナーチェンジ・改善がされていて、スタッフの並々ならぬ努力を感じた。終わった後、学生に感想を聞くと学びは多かったが、最後のイノベ構想は唐突な気がした。影だけでなく、光もというのは大切なことだが、双葉郡に国家プロジェクトを持ってきて地域振興をしようという発想は、原発の誘致と構造上は似ている。そこをクリアする

ためには事故から何を学んだのか、その教訓を活かして、イノベ構想は「こういうことを大切にしているんだ」というのが伝わってこない、展示室の状況と同じになりかねない。未来への責任を考える場所としての深みがあると、世界に誇れる学びの場となる。

【丹野委員】

被災の実情をずっと見てきて、震災の復興に向けて奮闘してきた人がたくさんいる。県内各地で復興に向けて奮闘している人がどんな未来を目指しているのかが見えた方がいい。その延長線上にイノベ構想を位置づける。「みらいのまち」はもっとうまく活かされた方がいい。震災後の歩みと未来の社会像を展示として消化していければと思う。双葉郡はじめ被災 12 市町村の未来像があつてのイノベ構想なので、そこがわかるとイノベ構想の価値が見えてくる。

【青木委員】

アンケートの中に人を中心に震災を考えられたという意見があり、うれしく思う。研究をすることと人々の暮らしがどう繋がっていくのかがもう少し見えてきた方がいい。伝承館は研究の場であると同時に地域の人たちにとってみれば、自分たちの歴史をわかってもらふ場所である。

講演をするときには必ず想い、意図があつて話す。しかし、展示は見たその日にすべての情報が理解できるとは思わない。展示を見て情報をたくさん提供した中で、何を問題として考えるのか、一回では終わらない場所だと思っている。ここで完結させようとするから学びがないと言われるのではないか。ここにある展示情報は見た人が何を考えるのか、問題提起の方向に結びつく情報かどうかを検討するのが大事なのではないかと思う。

【小野委員】

意見は別紙資料 9 を参照。

展示をひとつのストーリーとすると、クライマックスに赤羽議員の証言があることにギャップを感じる。何を考えさせるかという意味では非常に面白いが、全体のストーリーの中では違和感を覚える。イノベ構想が先にあつたのでは意味がない。その地域で頑張っている人の営みや努力を下から支えるのがイノベ構想である。

教育旅行の反応をどういう風に示しているのか気になる。10 代の反応は前向きだが、津波の話は伝承館では半分になってしまう。津波の威力等についてはいわき伝承みらい館や富岡のアーカイブが充実している。伝承館で答えられない部分が出てきたときにどう案内しているか。

【小沢委員】

イノベ構想の展示が最後に持ち帰るものとして、前の展示と滑らかにつながる必要がある。それぞれの意見には他施設との連携の話も出てきている。

【事務局】

教育旅行は事実をニュートラルに伝えられているが、学校により濃淡がある。事前学習、学校の取組の差が考えられる。学校への情報提供・連携に取り組んでいきたい。

【小沢委員】

来年度の事業に向けて話をしていきたい。

【青木委員】

教育旅行と一般研修の違いは明らかで何を求めて来ているのかということ。指導者の姿勢がすごく大事だと思う。今後の方針でも教員研修の大切さは言われていて、伝承館ではかなり実施しているが、震災の記憶が曖昧もしくは未体験の中でどのような教員研修を行うかはすごく大切だと思っている。

双葉郡の小中学校に赴任してくる教員たちに対して、震災や地域を知るきっかけ・研修を設けているのか。先生方の意識がどうなっているのかが教員研修・育成講座ともかかわってくるのかなと感じる。

【小沢委員】

県外には設備・資料の整備やツアーの解説などが大切。県内については丹野委員からご教示願いたい。

【丹野委員】

令和3年度の教員研修は7月に県立高校全校を対象に各校の代表が参加、12月に小中学校の教員35名を対象に伝承館見学等を実施した。令和4年度は新採用教員全員を対象に研修、小中学校の若手職員100名を対象に研修を予定している。

双葉郡の事例については資料を持ち合わせていないため、詳しいことはわからないが、ふたば未来学園では4月の第一週にバスツアーを行う。被災の実情を知るツアーを毎年行っているため、このような取組が今後ほかでも必要になってくる。

【小沢委員】

研修ツアーは前川委員も取組を進められているので、ご紹介いただければと思う。

【前川委員】

県外の先生を対象にツアーを行っていて、それをきっかけにホープツーリズムとして学校単位で来てもらう流れができています。目標は全国の高校生が必ず福島・伝承館を訪れることだが、その前段階としては全国の学校の先生に来てもらうことだと思っている。

次年度の計画について、資料閲覧室の充実を図ってほしい。研究者や大学院生など、資料閲覧室を目的に来館する人も増える。学校の教員が引率者として来た時に、資料閲覧室が充実していると待ち時間に本を読んでもらえる。偏りがなく幅広い図書を置いておくとより利用されやすくなる。HPに献本のお願いを追加しておくといろんな本が集まってくる。福島大学との連携も視野に入れるとよい。

【小野委員】

来年度の事業に関して質問が1つと意見が1つ。

原子力災害が継続している中、これからの事象についてどういう風に研究・展示していくのか。中間貯蔵施設や帰還困難区域、処理水の海洋放出問題などについて伝承館はどのように取り組むのか。

団体・学校などは秋に集中するため、学生・若い人は夏休みや春休みだと訪れにくい。一般の入館者をどのように呼び込むのが問われてくる。うつくしま未来博は様々な企画や人と人の交流などのプログラムで入場者がぐっと伸びた。行政が行う展示・企画はどうしても固くなるが、民間・一般の人が行う柔軟な企画をもっと活性化させていくと面白い展開になる。情報発信として閑散期にゆっくり勉強ができるなど、情報を得られる工夫を重ねていくと来館者も伸びていく。

【丹野委員】

対話型・双方向型のイベントや展示があるとよい。子どもたちが事前学習を行い、問いを発して自己内対話が生まれるような展示がいいのではないかな。

双葉郡の小中学校や高校などで、ふるさと創造学を実施している。震災前の暮らしの展示や震災後の復興の歩みをポスターセッションに、富岡町の昔の風景をジオラマにするなど、毎年やっているのだから、その成果物を最終的には伝承館で展示するのもいいのではないかな。成果物のアーカイブという点で必要になってくる。

南三陸でVRを活用して津波を仮想体験する施設がある。VRで仮設住宅の様子を体験するなど、展示を見るだけだと実感が湧かないので、映像をもっと活用してほしい。

【小沢委員】

(別紙資料9を基に、大場委員の意見紹介)

イノベ機構としての情報発信不足、理解されにくいというのはある。なりわいが消失してしまったことが分かった上でないとイノベ構想の全体像は見えない。農業・復興知事業に取り組んで地域が復興していくテーマを設定し、だんだん見ていくのが必要である。

来客数は想定レベルを超えて上昇している。最盛期になったらこれでは済まなくなり、学校の来校数が頭打ちになってきている。伝承館だけが伝承施設ではないので、いわきや近くの伝承施設との連携も必要になってくる。宮城県や岩手県など縦方向に連携も可能になってきているので、それぞれの特長を踏まえた連携があってもいいのではないかな。

国内だけでなく国外の対応も考えなくてはいけない。タブレットへの期待やスタッフの外国語への対応など、ターゲットを絞って取り組んでいくのも必要になってくる。伝承館から発信力の強化をさらに期待したい。

【前川委員】

来るたびに改善されよくなってきている。引き続き学生たちを連れてきたいと思っている。

【青木委員】

3.11を語る会で語り部の育成講座をどうしてもやらなければいけない。様々なところで育成講座がいくつもあってもいいので、各団体の取組がコラボできたらより有効的だと思う。福島で伝承活動していく人を育てられるといいなと思う。共通して力を合わせていくとより充実していくと思っている。

【丹野委員】

高校生や小中学生などが探求学習を進めている。石川高校が震災後の福島空港の役割につ

いて発表、藤沼湖決壊の語り部などいろんなテーマや課題を探してくる。子どもたちの多様なアプローチと連携するとともに、展示に生かしていければいいのではないか。

【小野委員】

桜の季節になってくるので、富岡や浪江など桜の名所がある場所に来る人に対して、呼びかけ等を発信してはどうか。みちのく潮風トレイルをいわきまで発信させようという動きがある。双葉・浪江だと請戸小学校や伝承館を経て双葉駅へと行くルートを想定している。課題は途中でトイレがないこと。伝承館がトイレ休憩の場として期待されるが、単に休憩で終わらず、伝承館を見てもらう呼びかけも柔軟に対応していければいいのではないか。

【事務局】

- ①先生との関わり…一般研修・専門研修を通して関わっていくことと七夕イベントで双葉町浪江町の学校に書いてもらったので、先生とのかかわりを持たた。
- ②現在進行形の事案…震災の事実を伝えられるように、展示のリニューアルを検討する。企画展の取組も今後検討していきたい。
- ③誘客…団体・一般で課題はある。リピーターを増やすための取組を行っていきたい。
- ④対話型・双方向型の取組…会津学鳳の生徒の発言やふたば未来学園の演劇、磐城桜ヶ丘の研究発表など立派な人材が育っている。成果物の展示もできればと思っている。
- ⑤イノベコーナー…他の展示と絡めていき、分かりやすい展示を心掛ける。
- ⑥国外発信…コロナ収束を見計らって、取り組んでいく。国際的な会議を伝承館で行えたらと考えている。

【小沢委員】

以上で有識者懇談会を終了いたします。